週報 W RAPID *Weekly Report on Aomori Prefectural Infectious Disease*

青森県感染症発生情報　（2005 年第 16 週）

発行　青森県感染症情報センター（2005 年 4 月 28 日）
（青森県環境保健センター内:担当　微生物部）
TEL　017-736-5411、 FAX　017-736-5419
青森県環境保健センターホームページ
http://www.pref.aomori.jp/eiken/index.html

Ⅰ　第 16 週の発生動向（2005/4/18～2005/4/24）

1. インフルエンザは、**五所川原保健所管内**において警報が継続していますが、減少傾向にあります。
2. 咽頭結膜熱は、**むつ保健所管内**において引き続き警報が出されています。
3. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、**弘前保健所管内**において引き続き警報が出されています。
4. 感染性胃腸炎は、**青森と弘前保健所管内**において増加傾向にあります。

Ⅱ　第 16 週五類感染症定点把握

保健所名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数
疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	(前週からの増減)
(72) インフルエンザ	79	6.08	72	4.50	73	5.21	81	11.57	85	9.44	16	2.67	406	6.25	-117
(60) 咽頭結膜熱			1	0.10	1	0.11					7	1.75	9	0.21	±0
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	21	2.63	27	2.70	4	0.44	3	0.60	12	2.00			67	1.60	-9
(62) 感染性胃腸炎	50	6.25	69	6.90	10	1.11	11	2.20	16	2.67	17	4.25	173	4.12	7
(63) 水痘	8	1.00	8	0.80	6	0.67	3	0.60	6	1.00	3	0.75	34	0.81	-21
(64) 手足口病	1	0.13	1	0.10					1	0.17			3	0.07	-6
(65) 伝染性紅斑	10	1.25							2	0.33	4	1.00	16	0.38	6
(66) 突発性発しん	3	0.38	4	0.40	5	0.56	1	0.20	6	1.00	1	0.25	20	0.48	-3
(67) 百日咳															
(68) 風しん					1	0.11							1	0.02	1
(69) ヘルパンギーナ	3	0.38							1	0.17			4	0.10	3
(70) 麻しん（成人を除く）															
(71) 流行性耳下腺炎			3	0.30	2	0.22	2	0.40	2	0.33			9	0.21	-6
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎							1	1.00					1	0.09	-1

は警報　　は注意報　　「空欄」：患者発生数 0

定点数					
保健所名	インフルエンザ（内科＋小児科）	小児科	内科	眼科	基幹
青森	13	8	5	2	1
弘前	16	10	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

Ⅲ　表Ⅱ以外の感染症法対象疾患　（17 年計には、今回届出された人数を含む）

（10）細菌性赤痢（二類全数把握疾患）　　上十三保健所管内：1 人　　（17 年計　1 人）

感染症の窓　咽頭結膜熱（pharyngoconjunctival fever:PCF）

咽頭結膜熱の全国の定点あたりの患者数は、平成 12 年から増加傾向がみられ、平成 15 年はこれまでの報告数を上回る流行となりましたが、平成 16 年はさらに増加しました。青森県では平成 13 年から全国を上回る報告数があり、平成 16 年は全国と同様に急増しました。これから咽頭結膜熱の流行時期に向かうことから、発生動向に十分な注意が必要と思われます。

咽頭結膜熱は、アデノウイルス感染により発熱、咽頭炎および結膜炎を主症状とする小児の急性ウイルス性感染症です。発生時期は夏期に大きな流行が見られます。その他、小規模アウトブレイクとしては季節を問わず、多くはプールを介した発生ですが、病院や施設、デイケアセンターなどでも報告されています。感染経路としては通常飛沫感染ですが、プールの汚染した水、タオルの共用などの接触による感染もします。

予防としては、流行時のうがいや手指の消毒、プール使用前後のシャワーやタオルの共用を避けるなどが大切です。

流行を起こす病原ウイルスは、多くはアデノウイルス 3 型ですが、7 型は心肺機能及び免疫機能低下等の基礎疾患のある人や、乳幼児、老人では重篤な症状となることがあります。又、全国における平成 17 年の咽頭結膜熱患者からは、現在のところアデノウイルス 2 型と 3 型が検出されています。

国立感染研の感染症の話　2003 年 14 週号を一部転載